

製品名: NBR1(7C3)マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM14433**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	120kDa

抗原情報

遺伝子名	NBR1
別名	Next to BRCA1 gene 1 protein (Cell migration-inducing gene 19 protein) (Membrane component chromosome 17 surface marker 2) (Neighbor of BRCA1 gene 1 protein) (Protein 1A1-3B)
遺伝子 ID	4077.0
SwissProt ID	Q14596
免疫原	NBR1 の組み換えタンパク質

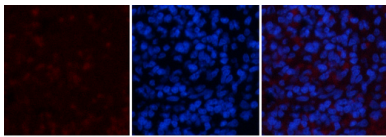
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、もともと卵巣癌においてモニタリングされる卵巣腫瘍抗原として同定されました。コードされるタンパク質は、形質転換能を持つ多くの遺伝子に存在する B ボックス/コイルドコイルモチーフを含みます。このタンパク質は、ユビキチン化されたオートファジー基質と細胞内封入体を形成することで、ペルオキシソームの選択的なオートファジー分解のための特異的なオートファジー受容体として機能します。この遺伝子は、BRCA1 腫瘍抑制遺伝子に近接する染色体 17q21.1 領域に位置しています。この遺伝子の選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2014 年 4 月], 注意: 当初 (PubMed:8069304) は卵巣癌抗原 CA125 と考えられていました。 ,ドメイン: OPR ドメインは SQSTM1 との相互作用を媒介します。 ,類似性: OPR ドメインを 1 つ含みます。 ,類似性: UBA ドメインを 1 つ含みます。 ,類似性: ZZ 型ジンクフィンガーを 1 つ含みます。 ,サブユニット: ホモオリゴマーおよびヘテロオリゴマー。 SQSTM1、タイチン/TTN、RNF29 と相互作用します。 ,

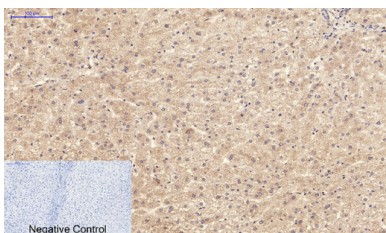
研究分野

細胞生物学

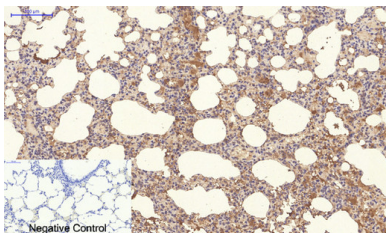
画像データ



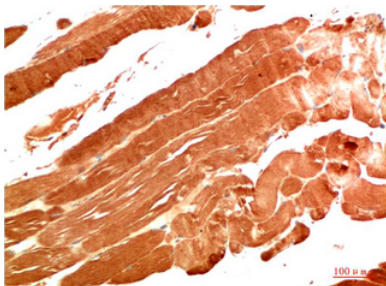
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, NBR1 マウスモノクローナル抗体 (7C3) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



パラフィン包埋ヒト肝組織の免疫組織化学染色。1. NBR1 マウスモノクローナル抗体 (7C3) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット肺組織の免疫組織化学染色。1. NBR1 マウスモノクローナル抗体 (7C3) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



1:200 に希釈した NBR1 マウス mAb を使用した、パラフィン包埋ヒト骨格筋組織の免疫組織化学分析。